

プログラム 15

ごみと森の問題について考えよう（環境保全活動）

目的

- ・ 私たちが毎日大量に出しているごみが、自然に負荷を与えている事実を知る。
- ・ ごみの大量排出などの問題解決に向けた身近な取り組みを考える。

概要

ごみ最終処分場に関する紙芝居を見ながら、自分たちが大量に出しているごみの最終処分場で起きている問題を知り、紙芝居の続きとして、もし自分が当事者であったらどう思うか、そして問題解決（これ以上処分場を造らなくてもよくする）のために、どうすればごみを減らすことができるのかを考え、ポスターで表現する。ポスターは「わたし宣言」として児童館や公民館、家に貼ってもらい、ごみ減量のためのツールとして役立つ。

対象

小学生から大人まで（人数は5名程度以上）



実施時期

特に問わない

所要時間

1時間程度

準備物

<クイズ～話し合い>

- ・ 資料「ごみと森について（クイズ）」（1枚）
- ・ 資料「森がなくなっちゃう（紙芝居）」（絵と文章を貼り合わせたものを1セット。ただし12・13ページについては人数分のコピー）
- ・ 資料「ごみと森<写真>」（1セット）
- ・ 資料「ありがとう、がんばってね」（切り離し、カードとして人数分用意）
- ・ ポスター用の画用紙（参加者数分）
- ・ 筆記用具（鉛筆など。ポスター用に多色マーカー・クレヨン・色鉛筆等。参加者数分）

<振り返り>

- ・ 振り返りシート（参加者数分）

内容

<クイズ・紙芝居>

- ・ 資料「ごみと森について（クイズ）」をする。
- ・ 資料「森がなくなっちゃう（紙芝居）」の1～13ページを話す。
- ・ 資料「ごみと森<写真>」を見せる。

<ごみを減らすための取り組みについての話し合い>

- ・ 資料「森がなくなっちゃう（紙芝居）」の12ページ「もし、ごみ処理場がキミの家の横にできることになったら、どう思う？」について、親子など大人と子どものペア等で話し合ってそれぞれが記入する。
- ・ 全員で発表する。
- ・ ごみを少しでも「出さない」「減らす」ための案をペアで話し合って、資料「森がなくなっちゃう（紙芝居）」の13ページ「ごみで森をつぶさないために」に、実際に活動をしている絵をそれぞれ描く。
- ・ 発表する。発表した参加者には、資料「ありがとう、がんばってね」のカードを渡し、ポスターの右下にのりで貼ってもらう。
- ・ ポスターは主催者側で受け取るか、または家に持ち帰ってもらい、「ごみ減量大作戦」ポスターとして壁などに掲示して活用する。
- ・ 今の生活を送る限りごみ処分場をなくすことはできないことを認識し、ごみ処分場があることが悪いのではなく、自分自身の問題として考えられるよう工夫する。



<振り返り>

- ・ 今日の活動で気付いたことなどを、各自で振り返りシートに記入する。
- ・ 感想や今日からやろうと決めたことなどを、みんなで発表しあう。

安全対策や配慮事項

- ・ 実施時間が長い場合は適宜休憩をとり、お茶やお菓子でコミュニケーションをとるのもよい。

展開や応用

- ・ 実際に、ごみの最終処分場や最終処分場候補地を見学に行ったり（市町村や広域圏事務組合のごみ処理担当課に確認する）、自分たちの出しているごみの内容や分別の仕組みなどについて調べたりして、大量生産・大量消費・大量廃棄のライフスタイルを見直すために自

分たちができることを、より深く考えてみる。

- ・ ごみの埋立ての減量化のために、どのようなことが行われているか調べるのもよい。(焼却灰の再利用など)
- ・ 「割り箸」をテーマに、同様の手法でごみ問題、森林の問題にアプローチする方法もある。



プログラム提供団体

団体名・担当者名 サンコファ・ネイチャーリサーチ 朝比奈裕子 (あさひな ゆうこ)

住所 富山市吉作117 大栄ハイツ3-206

電話番号 076-434-0985

電子メール keh00171@nifty.com

ホームページ なし

団体の概要 1997年発足。自然・環境・国際のテーマを中心に、環境保全を目的とした「自然をよく知る」ための「野外活動」や、世界や環境の問題解決に向けて「自ら考え・行動する人」を育てるための「ワークショップ(参加体験型学習)」や「おはなし会」などの講師派遣を行っている。

野外活動：自然観察・バードウォッチング・アニマルトラッキング・ごみ探検

ワークショップ：バナナ・パームオイル・熱帯林と私たちの生活について。

工作：自然素材を集めて作ってみよう(リース・かご等)・足跡スタンプ作り。

おはなし会：アフリカの人たちと暮らして・フェアトレードって何 等々。